



やまべ



令和6年
3月1日発行
第11号

節目を生かして

校長 平澤 一彦

いよいよ3月を迎えました。6年生にとっては小学校生活最後の1か月。「卒業」という文字が目に見え、心が迫ってきました。5年生以下の子どもたちも、次の学年への進級に向けて、心構えをしっかりとさせる時期となります。有終の美という言葉がありますが、最後の1か月に有意義に過ごさせたいです。



日本を代表する植物でもある竹は、雪の重みにも強い風雨にも耐え、他の木々にはないたくさんの節目をもって空に向かって真っ直ぐに成長します。風を全体で受け止めるしなやかさとともに、何百kgにもなる力を反り返って跳ね返す力強さももっています。そのたくましさの秘密は、軽さと強さを併せもつ規則正しい節目にあると言われます。そのような力をもつ竹は、種から発芽するまでに4年以上もかかり、その間に地下で1年間に7~8mもの根を張って地上の竹を支える準備をするそうです。やがて芽を出した竹は、節目ごとに成長点をもつことで、1日に80~100cm成長し、2か月で20mにもなります。目に見える成長の姿とともに、目には見えない支える力のバランスは、私たち人間の生き方に大きなヒントを与えてくれるのではないのでしょうか。

節をつくり、外からの多くの力をしなやかに、力強く受け止め成長する姿は、子どもたちが目標に向かって頑張ろうと粘り強く取り組む姿に重ねられます。また、学びの過程で、目に見える行動や成果だけでなく、それらを支える意欲につながる努力の大切さを教えてくれます。真っ直ぐな心をもって、たくましく育ててほしいと願うのは、親や教師だけではなく誰もが望む子どもの姿です。しかし、現実には、人間関係をはじめ様々な困難が降りかかってくることもあります。それだけに、成長の節目において目標をもって進み、振り返ることが大切です。その積み重ねが、しなやかさと力強さの基となる節を築き、これから出会う様々な困難に打ち勝つ知恵や力の源となることを信じます。

最後になりますが、保護者の皆様、地域の皆様には、一年間本校教育活動にご理解とご協力を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。来年度も変わらぬご支援をお願いいたします。